

新入生の皆さん、入学おめでとう。

日本工業大学は、設立以来「実工学の学び」を標榜し、実験・実習を重視するプログラムで多くの実践的技術者を社会に輩出してきました。

昨年12月、設立50周年記念建設事業の最後として、多目的講義棟が竣工しました。この建物はグループ学習や学生同士の学び合いを意図し、1・2階にオープンな学習スペースを設けました。授業でわからなかったことがあれば、ここに行けば何とかなる。そんな場となるよう、学修支援センターをはじめ多くのサポート機能も充実させています。皆さんも、是非、毎日立ち寄って情報交換や仲間作りに利用してください。

皆さんが目指す「エンジニア」、それは「社会の問題を見つけて解決する人」です。「理学」の目標が自然のしくみの理解（真理の探究）であるのに対し、「工学」の目標は「人類の幸福」であると言われます。「工学」は

工学は目的志向 その面白さを体感しよう

社会の様々なニーズを出発点とし、そのニーズに応えることを目的に、自分の個性を発揮し、考えながら研究を進め、最終的に生活に役立つ製品を作り出します。同じ目的でも、作ったとしても、この個性を発揮できる多様さ・柔軟さゆえに、それぞれ違ったものが出来上がることもありうる、これが工学の面



学長 成田 健一

白さ、奥深さでもあります。

このような「解決する」ことに加えて、「問題を見つける」こともエンジニアに求められる重要な資質です。自分の専門領域に閉じこもらず、旺盛な好奇心をもって、幅広い分野に興味を広げることがこれからの社会では益々求められます。

最近、学生の皆さんを見ていて気になることは、「必要なことだけを効率よく学ぶ」という傾向が強まっていることです。必要かどうかの判断を決して急いではいけません。そして皆さんにも、「苦労したものほど達成感が大きかった」という経験もあるはずで、新しい課題の解決には、自分の頭で悩みに悩み、考え抜くというプロセスが不可欠なのです。

最後に、私の専門分野である都市気象にも関係する流体力学の泰斗で「カルマン渦」にその名を残すTheodore von Karmanの言葉を紹介します。

“Scientists study the world as it is; engineers create the world that has never been.”

皆さんも、これからの4年間、見たこともない未知の世界の創造に向けて果敢にチャレンジし、「人を幸せにする」技術者に成長してください。